114
A 123
11

第二百七十五号　五葉半

千八百七十四年十月十日「ジャパン、ウヰークリ、メイル」新聞抄訳

（前略）抑、日本土地ノ頗ル豊饒ナルニ比シ以テ之ヲ観ル時ハ日本ノ人民ハ意外ニ貧ニシテ其窘困ハ自カラ之ヲ招ク者タリ而ノ斯ク人民ノ貧困ナル所以ハ政治上又ハ経済上ノ律法其宜シキヲ得サルニ因ルト雖モ此不良ナル律法ヤノ過半ハ已ムヲ得サルニ出テシ1是ト又一箇ノ不幸ト称スベシ故ニ日本ノ善人君子ハ頗ル良法アルヲ知リ之ヲ実際ニ行ハント欲スト雖モ

大正十一年四月
大隈侯爵邸寄贈

若シ之ヲ行ハヽ、忽チ大騒乱ヲ発シ其害タルヤ
却テ其良法ヲ行ハサルヨリ更ニ甚タシカル可
シ例ヘハ近頃政府ニ於テ更ニ穀類ノ輸出ヲ制
止スル令ヲ下セシカ如キハ固ト不良ノ法ト雖
モ亦已ムヲ得サルニ出テ外國人ノ知ル所ニテ
ハ政府一年間此制禁ヲ廃シタル後今ニ於テ更
ニ之ヲ復シタルハ蓋シ其處置ノ宜シキヲ得タ
ル者ナル可シ然レトモ斯ク已ムヲ得ス其制禁ヲ
復シタルハ慨歎ス可キ所ニシテ更ニ好時節ノ
来ルアラハ政府須ラク其制禁ヲ廃スルヿ是シ

余等カ希望スル所タリ此ニ於テ試シニ問フ日
本人ト余等トノ利益ノ為メ如何ニシテ日本ノ
貿易ヲ盛ナラシムルヲ得ベキヤト而メ其答ヘ
ハ左ノ如シ
夫レケムプル、アダムス又ハ往時ノ「ゼスイト」僧
侶等ノ如キ数百年以前日本ニ来リシ人ノ著書
ニ就キ以テ之ヲ観ル時ハ何レモ皆日本ノ人心
稠密ナルヲ記セサルナク而メ此等ノ人ハ僅カ
ニ人煙稠密ナル東海道ヲ旅行シ更ニ人口寡ナ
キ地方ハ敢テ之ニ至ルヿナシト思做スモ往キ

ニ日本ノ人口ハ極メテ多カリシヲ信ス可キ據
マリテ旧キ地理字書、學術字林、學校用讀本等ニ
ハ日本ノ人口ヲ三四千万ト記シタリ、蓋シ此等
ノ書ハ互ニ其説ヲ寫シテ之ヲ抄出セシ者タル
可シト雖モ又必ス其基本ト為ス所アル可ク其
基本ト為セル説ハ固トヨリ誤謬ヲ免レスト雖
モ漫ニ之ヲ擯斥ス可キニ非ナルナリ然レ𪜈先
ツ五百年以來日本ノ人口ヲ平均二千萬ト看做
シ試ミニ問フ此二千萬ノ人民ハ其間何等ノ事
業ヲ行ヒシヤ又日本ニ於テハ如何ナル大都會
アリヤ如何ナル威大ノ公廈宮殿等ノ存スルア
リヤ僧カニ寺院城砦アリ、茅三等ノ造營アリ、船
船アリ、巧ニ耕耘セシ土地アリ、荒蕪ノ土地アリ、
少許ノ金類アリ少許ノ書籍アリト雖モ其他ニ
於テハ何物ヲモ存スルヿナク唯士族ノ数百万
アルヲ見ルノミ而メ此一事ハ即チ日本ノ貧ナ
ル所以ニシテ民ノ貯蓄ヲ竭シタル者ハ数百万
ノ武文官吏ニ在リトス之ニ由テ日本ニハ英仏
意ニ於ケルカ如キ旧時ノ遺跡アルヲ見ス又富
饒ノ國トハ称ス可カラサル日耳曼又ハ瑞西ニ

モノ遠ノ及フ可カラス又試ミニ日本ヲ支那ト比スルニ支那ハ其城閣、万里長城、大運河及ヒ其他無数ノ溝渠等ノ夥シキ人力ヲ用ヒ其工業ハ世界各國ニ鉄道ヲ造リ橋梁ヲ架スルニ足ル可ク是レ皆支那工業ノ遺跡ト雖モ日本ニ於テハ之ト異ナリテ其工業カ作ノ遺跡ヲ見ルヿナク実ニ倫敦府中コルンヒルトリーゼントト街ノ間ニ在ル僅カ一列ノ舗店倉庫ノ財貨ヲ以テ東京全府ノ五倍ヲ買収スルニ足ルヘシ然ルニ五百年間英國ノ景状ハ如何ナリシヤ殊ニ其人口ノ多寡ハ如何ナリシヤ其間人口ノ数ハ僅カニ一千万ニ過キサルヘク而メ其方今ノ盛昌富饒ヲ致セシ起源ハ嘗テ其人口僅カニ五百万ニ過キサリシ時ニ在ルヘシ

方今日本人ハ其國ニ資本金ノ缺乏セシヲ知テ皆之ヲ歎スト雖モ其貧困ヲ濟フ法方ニ至テハ敢テ一定ノ説ヲ見ス然ルニ日本人ハ敢テ他國ノ産物ヲ仰ガサルノ意アルヨリ自國ニ於テ製作スルニ適セサル品物ト雖モ亦強テ自國ニ於テ之ヲ作ラレト欲シ之カ為メ無益ノ試験ヲ為

シ彫多ノ財貨ヲ費シタリシカ蓋シ其例ハ之ヲ
枚挙スルニ遑アラスト雖モ今其最モ著明ナル
者ヲ掲クルニ全タ製作スル能ハサル製鉄場ヲ
設ケ、損失ノ明カナル硝子製造場ヲ造ラントス
ル等皆此類ニ属シ而シテ日本ノ目論見人等更ニ
明亮ニ此等製作ノ理ヲ解スルニ至ル迄ハ斯ク
ノ如ク其財ヲ費シテ止マサル可ク真ニ利益ア
ル製作ニ用ヒントスル財本ハ次第ニ竭ク可シ
是レ日本ノ益ヲ思フ輩ノ歎セサル可カラサル
所ナリ抑ヒ日本人ハ其欧洲人ヲ模セント欲スル
早キニ過キ其國ニハ欧洲ニ倣フ可カラサル経
済ノ法アルヲ忘レタリシカ蓋シ日本人ノ欧洲
ノ智識ヲ借リ或ハ其軌範ヲ見ント欲スルハ有
益タルヘシト雖モ外國人ノ貿易ノ利ヲ見テ日
本人モ亦必ス之ト同シキ商業工作ヲ為サヽル
可カラスト思フハ大ナル誤ニシテ若シ日本人
恰モ発狂セシカ如ク製鉄場又ハ硝子製造所ヲ
造ルヲ止メ其國ノ為メ至大ノ財源タル米穀ノ
耕耘ニ意ヲ用ヒ以テ其富ヲ増サントト計ラハ日
本ノ繁昌必ス増シ隨テ其外國貿易モ亦盛ナル

可シ蓋シ日本ノ困難ハ財本ニ乏シクシテ工作ノ繁栄ナラサルニ因ル故ニ経済書ニ云ヘル如ク財本増セハ亦労動ヲ増シ利益モ亦隨テ増シ國ヲ富マシ工夫ヲ豊ナラシム而メ又財本ノ増スニ因リ工丁ノ増ス時ハ物産モ亦増シ若シ又工丁ノ数同シケレハ各人ノ得ベキ利分更ニ増シ之ヲ勉励セシメテ亦其物産ヲ増サシム可シ

前文記スル所ニ就キ以テ之ヲ観ル時ハ日本ノ将来ノ繁昌ハ其米ノ耕作ト養蠶トヲ盛大ニ為スニ因ル可ク金銀鑛ノ如キハ其利少ナク鐵及ト石炭鑛ノ如キモ亦大利アル能ハス而メ此等ノ金類ヲ穿鑿シテ之ヲ掘出クス費用ハ夥多ナル可シ然レ𪜈絹ノ償方今ノ如クニテ之ヲ製作スル者ノ為メ利アリ又米ノ價方今ノ儘ニテ農夫ノ為メニ益アラハ此二品ノ捌ケ方頗ル大ニシテ國モ亦之カ為メ富饒ナル可シ

訳　箕作権大丙史